

## 公益社団法人日本心理学会研究集会等助成金成果報告書

代表者氏名 (ふりがな)	入戸野 宏	所属	広島大学
連絡先 (電話・E-mail)	須藤智(静岡大学大学教育センター) ossuto@ipc.shizuoka.ac.jp 静岡県静岡市駿河区大谷 836 静岡大学 大学教育センター 054-238-4299		
研究集会等名称	技術心理学研究会		
成果概要	<p>1) 参加人数(会員・非会員及び認定心理士の人数を記載してください)</p> <p>会員 32名(うち認定心理士 1名) 非会員 34名(うち認定心理士 0名)</p> <p>2) 集会等の目的・成果等 目的: 実験心理学の産業・工学分野への適用の現状を会員に紹介するとともに、実験心理学のスキルや知見を実社会で生かすための方策を議論した。</p> <p>&lt;成果&gt; 内容: 1) 2016年3月7日に第9回研究会研究会を行った。 2) 2015年9月23日に日本心理学会大会にて公募シンポジウムを行った。 3) 技術心理学を心理学教育への展開を目指した検討を行った。</p> <p>これまでも実験心理学の知見やスキルは、産業・工学分野に貢献してきた。しかし、我が国では、企業や公共機関など学会以外の組織とつながりをもつ研究者は、非常に限られている。本研究集会によって、このような活動の意義をより多くの研究者が共有できれば、実験心理学による社会貢献をさらに促進し、企業や学生が抱く心理学に対するイメージの改善につながると期待される。</p> <p>以下に成果一覧を記す。</p> <p><b>1. 第9回研究会の開催</b> 以下の日程・内容で第9回研究会を行った。参加者は34名であった。研究会では、小森先生の基調講演の後、一般発表者による研究報告が行われた。</p> <p>日時: 2016年3月7日(月) 13:30開場 場所: 大阪電気通信大学寝屋川駅前キャンパス 601室 <a href="http://www.osakac.ac.jp/institution/campus/access/">http://www.osakac.ac.jp/institution/campus/access/</a> 共催: 大阪電気通信大学情報学研究施設 基調講演: 「形から感性を予測する、感性から形を作り出す」 小森 政嗣(大阪電気通信大学情報通信工学部情報工学科・教授) 一般講演: 1. 「化粧の効果への知覚心理学的アプローチ」 松下戦具(大阪大学大学院人間科学研究科)</p>		

2. 「語義と声質の意味一致効果：自然／合成音声の比較」 宮代こずゑ（筑波大学人間総合科学研究科）
3. 「機械学習により音楽情報と自律神経活動から鳥肌感の生起を予測する試み」 森 数馬（大阪大学大学院情報科学研究科）
4. 「製品選択におけるユーザビリティとデザインのバランス：メンタルモデルの個人差による検討」 西崎友規子（京都工芸繊維大学）

## 2. 日本心理学会 79 回大会：公募シンポジウムの実施

2015 年 9 月 23 日に開催された日本心理学会第 79 回大会公募シンポジウム「実学としての実験心理学 6—応用と科学のジレンマを越えられるか」には、朝一から開催されたにもかかわらず、会場は満席となった。各話題提供者から、異分野や企業から心理学に求められる知見と自らの立場の関係や、実施されている非常に質の高い心理学の応用研究、あるいは応用に適用するために発生した基礎研究が紹介された。本シンポジウムの命題である「応用と科学のジレンマを越えられるか」という問いに対しては、応用現場のニーズなどに応えようとするにより、非常に重要な研究テーマが生じうること、そのためには、応用分野と心理学がお互いに理解しあうことが重要である、ということが、登壇者からの共通したメッセージであった。

場所：名古屋国際会議場

日時：2015/9/23 9:20- 11:20

（概要）心理学は周辺諸科学と有機的に関連しながら発展を続けている。その一方で、心理学者がもつ知見や枠組み、方法論を生かして、社会の要請に応えることも期待されるようになり、一部の実験心理学者が企業などとの共同研究として応用的な検討をすすめている。このとき、実学的な目的にあわせるとピアサイエンスとしての研究（者）の質や価値とのバランスの見極めが難しいようにも思える。本シンポジウムの目的は、「実学としての実験心理学＝技術心理学」の現状を紹介し、関心を共有する研究者・実務家が情報交換できる場を構築することである。今回は、応用研究を実践しながら学術誌などでの発表も精力的に推進している第一線の研究者が、応用研究と科学のジレンマの克服に焦点をあてた話題提供を行う。実験心理学による社会貢献を目指す研究者や学生の来聴を歓迎する。

企画代表者、司会者 和田有史 農業・食品産業技術総合研究機構

企画者 入野野宏 広島大学

企画者、話題提供者 西崎友規子 京都工芸繊維大学

話題提供者 松原和也 #農業・食品産業技術総合研究機構

話題提供者 坂井信之 東北大学

話題提供者 武田裕司 産業技術総合研究所

指定討論者 永井聖剛 愛知淑徳大学

指定討論者 市原茂 メディア・アイ

司会者 熊田孝恒 京都大学/理化学研究所

## 2. 次年度の予定

今年度の議論を踏まえ、次年度以降は、1)研究会の開催、2)技術心理学を含んだ心理学教育のカリキュラムの検討 3)Web ページによる研究会の広報活動行なう予定である。今後の本研究会の活動によって、技術心理学の考え方が多くの研究者によってシェアされ、我が国のさらなる心理学の発展に寄与する組織的な活動の実現が期待される。

## 研究集会参加者リスト

〈研究会名〉		技術心理学研究会 (こちらに研究会名をご記入ください)		
研究集会開催日:		28年 3月7日		
	氏名	所属	会員番号	認定番号
1	都賀(蘭)美有紀	立命館大学/島根大学	○	
2	佐々木康成	金沢星稜大	○	
3	多田美香里	関西福祉科学大学	○	○
4	松下戦具	大阪大学	○	
5	佐藤剛	グロービス総合大学院		
6	五越勢治	帝塚山学院大学	○	
7	原田悦子	筑波大学	○	
8	西崎友理子	京都工芸繊維大学	○	
9	芦高勇氣	神戸大学	○	
10	釜淵颯太	大阪電気通信大学 小林研		
11	森数馬	大阪大学大学院 情報科学研究科	○	
12	小森政嗣	大阪電気通信大学	○	
13	青谷侑香	大阪電気通信大学		
14	小窪久美子	大阪電気通信大学		
15	酒井優希	大阪電気通信大学		
16	久保	マツダ株式会社	○	
17	蘭悠久	島根大学	○	
18	津田裕之	京都大学	○	
19	谿雄紘	関西学院大学	○	
20	佐藤隆太	デンソー		
21	猪 健太郎	関西学院大学	○	
22	望月室志子	日本女子大学	○	
23	入戸野宏	広島大学	○	○
24	森川政夫		○	○
25	熊田孝恒	京都大学	○	

	氏名	所属	会員番号	認定番号
26	和田有史	食総研	○	
27	宮脇僚太	大阪電気通信大学	○	
28	須藤智	静岡大学	○	
29	宮代こずゑ	筑波大学	○	
30	小谷竜平	大阪電気通信大学		
31	西村友宏	(株)クロス・マーケティング	○	
32	松川順子	金沢大学	○	○
33	井原なみは	(株)センタン	○	